

昭和26年度夏期講習會の概要

秋 山 岩 雄

8月1日 水曜 第1日

海と淡路を一望に収める眺望の丘明高の講堂で、住き日午後1時「明石を中心とした郷土の生物環境を通じ、理科教員の専門的資質の向上をめざす研究会」がはじめられた。

主催者側の田口明石市長並に小林学務課長の挨拶があり、続いて森生物学会長の挨拶の後で、来賓県教委福田指導主事及び県教育研究所片山所長より賞讃と希望の祝辞を受ける、其の後神戸大学理博富田雅次教授から「協同研究の精華—境界領域の問題—」の講演をきき、世界科学史上より協同によるすばらしい成果を挙げた学者を引例しつつ力説する富田教授から、科学者の態度につき深い感銘をうける。

午後4時蚕糸試験場にむかう。武内場長より同試験場の機構並に活動状況の説明をうけ、続いて担当技師より現在の遺伝学の方角につき講演をきき、続いて蚕室の実地見学をする。班別により養蚕についでこのあまた知見を深めた後で、日程に従い6時2合の大型バスに分乗し、宿舎にあてられた明石市公会堂にむかう。

楽しい夕食後、午後8時より広大理博滝敏教授から「軟体動物の概観」についての講演をきき、分類学の観点に立ちながら、該博な軟体動物一般についでこの講話に、時の移りを忘れる。10時窓下によせる波の音をききながら、広い室一ぱいに肘を枕の夢路につく。

8月2日 木曜 第2日

6時起床。朝食諸準備をすませ7時半、2臺のバスで明石水産試験場にむかう。加藤場長より水試の機構並に一般活動状況についての説明をうけ、つづいて採集実験と軟体動物解剖の2班にわかれ、午後交替する事にして実習にはいる。

採集実験班は、海上保安庁の船と水試の2隻で、薄曇りの下実習の好天気を喜びつつ水素イオン比色計、プランクトンネット、透明盤、中層採水器等をつみこみ出発する。気持よい波のうねり、淡路明石の展望に興じつつ程なく岩屋に到着、海浜植物や磯生物の採集に興じる。帰途海深、水色、酸素量、透明度等の実測やプランクトン採集を行う。軟体動物解剖は滝先生指導により、プランクトンの鏡検、マダコの解剖実験、フナムシ、アサリの鰓纖毛及びウミボタルの研究をす

るこの海の実習の1日に顔の色をこがし、夕やみせまる頃一同宿舎にひきあげる。

夕食後8時より菊作りの権成立石氏から、菊についての種類、開花と日照、肥料、さし木とホルモン剤の効果等につき講演をきき、深い感銘を受けた後、茶菓を前に懇親会にうつる。せんべいをつまみながら所感、思出、成功談、失敗談と話の花がさく。

8月3日 金曜 第3日

7時宿舎を出発、天気よし。8時明石公園内にある立石氏指導の菊栽培場につき、説明をうけながら場内を見学する。発根素を使用したものと使わないものにつき実物の比較、普通栽培、懸崖作りと数多い菊の出来栄のすばらしさに驚く。大菊懸崖1丈ものを作った記録をききながら、菊の秋の明石の美しさを想いつつここを辞す。

続いて明石公園内を京大理博北村教授指導のもとに植物採集をする。明石城跡に座しての藪斗科植物の講話は植物に対する興味を深め、北米ミシシッピの泥中に育つもの、明治初年に移し植えられたものと、ききながら大きなラクウショウを見あげてはこの公園に対する新たな感慨がわく。記念撮影や紅谷理事長編明石公園の植物目録をみかえしながらの屋食後、農事試験場にむかう。

1時半西大条場長より挨拶の後、井上技師より除草薬 2,4-D の稲作使用についての講演をきき、天然色写真による記録は興味を深める。かくてこの場内の見学を最後に3日間に亘る昭和26年度生物夏季講習会を盛會裡に終了。3時半紅谷理事長の挨拶で閉会となる。

参会者総計130名。終りに本講習会開催につき万端世話にあたった明石支部会員の運営分担当表を掲げ概要記録の筆をおく。

総務進行係 竹中、渋谷、花田、森、秋山

受付会場接待係 小川、西、中原

講師係 渋谷、中富、島田

交通係 田中、浜、石田

宿泊係 田口、橋本、佐藤

会計係 米井

実習係 山崎、高島、高田